

**2月3日(火) 9:30~12:30**  
**班別演習①(実地研修の省察と研修成果共有を図るグループワーク)**

■各班は各テーマを1つずつローテーションし、それぞれ別のテーマに  
 2回ずつの講師介入、「ポイント」の共有と各々のポイント・ポイント等  
 共有に話し、準備(2回ローテーション)。

■各テーマへのローテーションが終了後、各班のテーマを巡り、種別  
 ごとに共有された内容を中心に、「事例」を巡り各々の事例を共有、整理、  
 共有を行う。最終、各1~2つのテーマを1つずつローテーション。

■各班の役割  
 ○〇班=実地研修での学び、振り返り  
 ○〇班=各々テーマの共有と事例共有、ガイドブックの作成  
 ○〇班=その役割をこなすこと

平成26年度 アウトリーチ(訪問支援)研修 各回研修資料

**2月3日(火) 9:30~12:30**  
**班別演習①(実地研修の省察と研修成果共有を図るグループワーク)**

**「ガイドブック」の編集・作成について**

(1) 読み手の想定  
 「ガイドブック」の作成にあたっては、子  
 ども・若者への相談・支援経験が1~2  
 年程度を前提として想定し、アウトリーチが  
 未経験または「経験が少ない」こととする。  
 ※あくまで想定した読者

(2) 編集イメージ  
 各テーマそれぞれ、3~5つ程度の「節」  
 に整理する。左記の「ガイドブックの編  
 集イメージ」を参照

平成26年度 アウトリーチ(訪問支援)研修 各回研修資料

**ガイドブックの編集イメージ(例)**

アウトリーチ(訪問支援)ガイドブック  
 テーマ①「アウトリーチ実施の前提となる関係者の役割、見立て・アセスメン  
 ト」

**1 当事者の理解**  
 アウトリーチが実施されている当事者(ひきこもりの状態など)につ  
 いては、実施経験者への相談経験が乏しい場合が多い。こうした場合  
 の留意点としては以下が上げられる。――  
 ○本人の理解・関心に応じて  
 ○アウトリーチにあたるスタッフは、

(例2節)

(例3節)

※3~5つ程度の「節」とする

**2月3日(火) 9:30~12:30**  
**班別演習①(実地研修の省察と研修成果共有を図るグループワーク)**

各班ごとに、以下を決める。

■「班長」  
 ・班のファシリテート  
 ・「節」の構成や、編集の分担など

■「待機者(ローテーションで動かない人)」  
 ・各ローテーションでの、意見聞き取り  
 ・ローテーション終了後に、どんな意見がでたかを伝える

■「班長」「待機者」の役割は、あくまで見守です。  
 チームワークをもって活動に参画できれば幸いです

平成26年度 アウトリーチ(訪問支援)研修 各回研修資料

**2月3日(火) 9:30~12:30**  
**班別演習①(実地研修の省察と研修成果共有を図るグループワーク)**

○ローテーションを終えた後、班長等のファシリテートにて班内で協議。

○付箋に記載された事例の整理統合や重要な事例、ポイント・コツ等につ  
 て協議し、ガイドブックに記載すべき「節」とその内容を作成してください。

○ガイドブックへの記述方法は、  
 基本的には各班にお任せします。  
 (最終的に統合編集します)

○ご不明な点がございましたら、その都度  
 ご質問ください。

平成26年度 アウトリーチ(訪問支援)研修 各回研修資料

班別演習②では、特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス代表理事  
 の谷口仁史氏より「アウトリーチ・ガイドブック」の内容を考察するための事例検討演習  
 を行い、実践的なアウトリーチの方法についても学んだ。

**アウトリーチ(訪問支援)と重層的な支援ネットワークを  
 活用した多面的アプローチ**  
 ~社会的孤立・排除を生みない総合的な支援体制の確立に向けて~

**アウトリーチとその後の支援過程は  
 一体のものとして考える**  
 ~多重困難家庭を対象としたアウトリーチケースを用いたグループワーク(まとめ)~

※事例については当事者から許可を受けて使用しています。  
 ※プライバシー保護の観点のため事例の性質に影響を与えない範囲で年齢等を修正しています。  
 ※まとめは当該個別ケースに関するものであり、一般化できないものも含まれます。

11

**本人の状況と背景情報への目処に基づいた効果的な問題解決とその在り方の検討**

○グループワークの想定  
 関係者への聴き取りによって真実が明らかとなり緊急支援だけでなく保護拒却に向けた問題解決の段階へ移行、本人の状態だけでな  
 く背景要因に対しても配慮しつつ効果的に支援の段階を移行するために担当者は何ができるのか?その在り方を検討する。

(1)追加情報と関係書類から担当者ができるべきことを考察する

①解決すべき問題	②具体的方法・対策	③留意点

図表 10 (合同研修後期及び本研修総合の感想／一部抜粋・語調整)

合同研修後期及び本研修全体の感想
<p>(感想1) これからが大切だと思います。今後どのように事業を展開し、アウトリーチを加えていくのか、学んだことをどのように地域に広げていくのか。</p>
<p>(感想2) この度は、この研修に参加させていただき、ありがとうございました。            研修に参加させていただく中で、足りないこと、もっと実践いかなければいけないことなど、たくさんの気づきがありました。組織の体制などを変えるのは難しいですが、まずは1つのケースからはじめてみることから、実践していきたいと思います。            また、研修の参加者の所属が、公的・民間とさまざまで、いろんな意見が聞けたことも、大変ありがたかったです。</p>
<p>(感想3) 本研修では、ありがとうございました。            理論・概論を学ぶ研修前期から、実体験を通して学び実地研修、まとめ・アウトプットの場となった研修後期と、全て「流れ」のあるプロダクションで知識・スキルを吸収しやすい学びの場となりました。人間性・魅力だけでは解決しがたい問題も、「知識・理解・経験＋人間性」ということであれば、十分たちむかえるのだと感じました。支援をするのは人間なので、手を取りあって取り組んでいきたいと思いました。スキル・人間性ともに磨いていきたいです。ありがとうございました。</p>
<p>(感想4) 限られた時間の中で、可能な限り研修生の発表や発言の時間を用意してくださり、ありがとうございました。司会や研修のコーディネーターなど、大変ご迷惑をおかけしてしまうことになりましたが、配慮や工夫をして頂いたおかげで、とても良い研修になりました。            アウトリーチ研修に参加させて頂けたことも、ありがたく、そしてお気遣いいただくことも申し訳なく、1つ1つのワークや交流が貴重なものとして学びになりました。            こうした素晴らしい研修が続き、発展していくことを願っております。            また、アウトリーチ活動により、多くの人たちや課題が改善し、解決していくように、皆様と学び励んでいくことが、新たな目標となりました。</p>
<p>(感想5) 実地研修先は1つでしたが、多くの実地研修を受けたような感覚で、それほど自身の濃い研修となりました。今後も人と人とが交流できる研修を期待しています。            まさに主催者のみなさんの心配りのおかげだと思いました。ありがとうございました。</p>
<p>(感想6) 全国から想いのある研修生が集まって、多くの学びを得ることができました。            特に、事業の運営や社会資源の不足、行政機関としての役割という立場や、どのように協働していけばよいのか、担当レベルで取り組んでいけることはどんなことか悩んでいたところでしたので、皆さんや研修先のスタッフの方としっかりと話をできたのは貴重な機会でした。            支援は1人でできることでないこと、1人でなくていいことを心から感じることができました。            自分自身も支援者として成長していくこと、この仕事を通じて成長させていただけることの幸せ、感謝の気持ちを大切に、長く取りくんでいきたいです。            居心地よく学びやすい雰囲気づくりにご留意下さり、大変感謝しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。</p>

(感想7) 研修全体を通して、非常に勉強になる点が多かったと同時に、自分自身、所属組織の課題、弱点もかなり多く気づくことができました。どう活かしていくか、取り組んでいけるか、これからが大変であり不安も大きいですが、この出会いを今後も引きつづき大事にし、つながっていったらと思います。大変お世話になりました。ありがとうございました。

(感想8) 長期に渡る研修、大変お世話になりました。  
とても充実した学び多き研修でした。この学びと情熱を現場に持ち帰り、全体に広げられたらと思います。この研修は是非他の職場にも受けてほしいと思うので、受講を含めて勧めようと思っています。  
知識と技術、更に経験を積んで、ヒトとして大きくなっていきます。  
どうもありがとうございました。

合同研修後期及び本研修を総合した満足度のアンケート結果は、図表の通りであった。

図表 11 (合同研修後期／アンケート結果)

